

# 「地域防災Web」でつくる地区防災計画

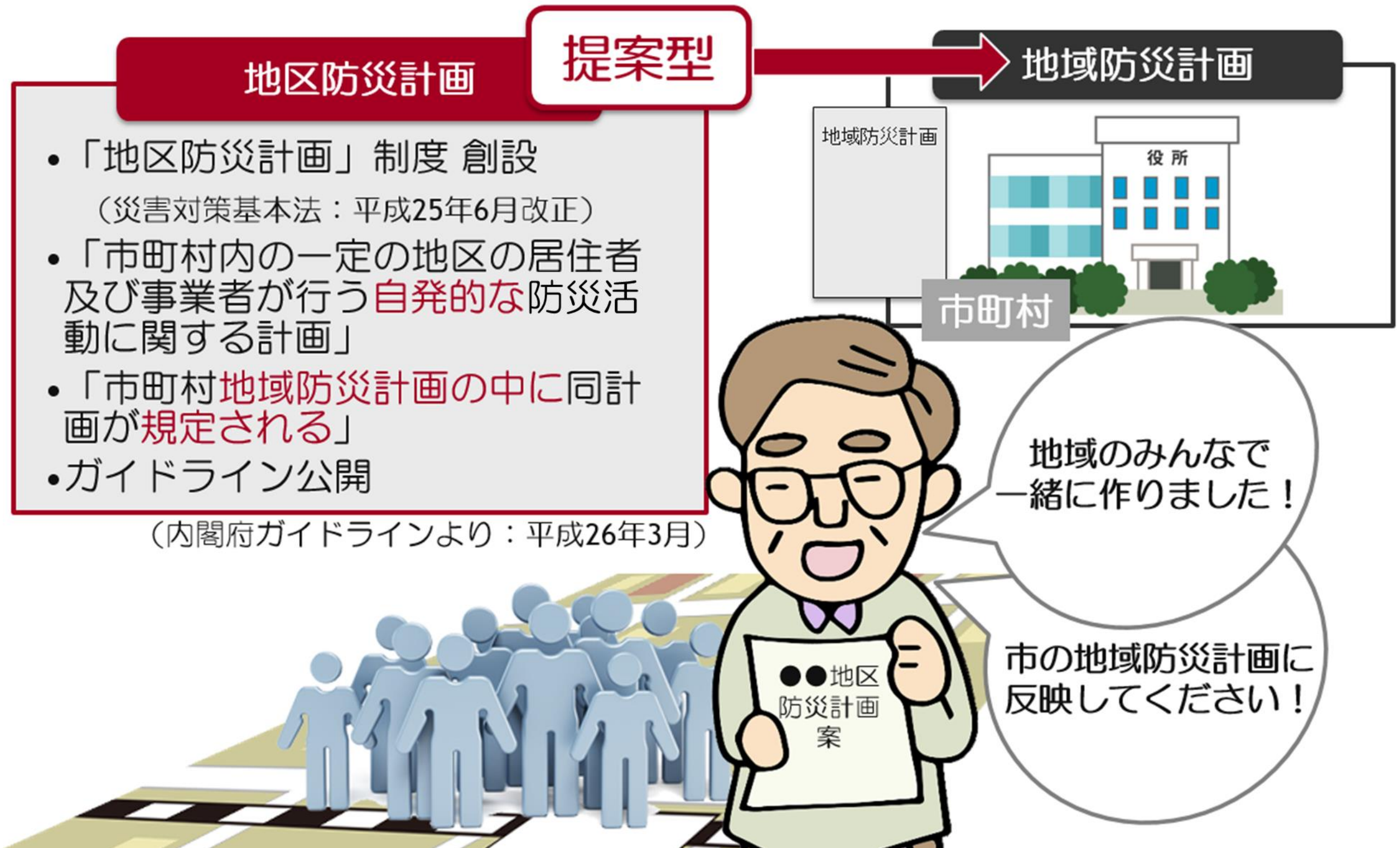
国立研究開発法人 防災科学技術研究所

災害過程研究部門

李 泰榮 (い てよん)

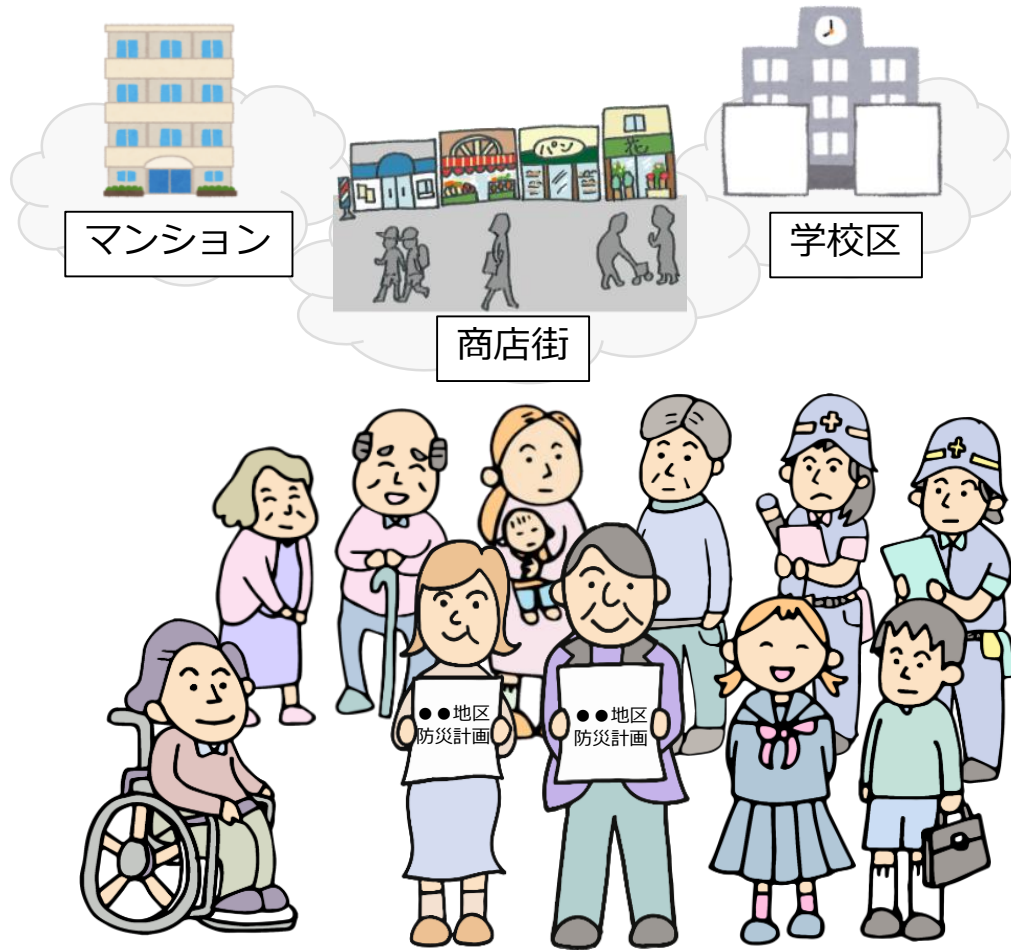
# 地区防災計画制度の創設

※「地区防災計画ガイドライン」（内閣府、H26.3）を参考に作成



# 地区防災計画とは

※「地区防災計画ガイドライン」（内閣府、H26.3）を参考に作成

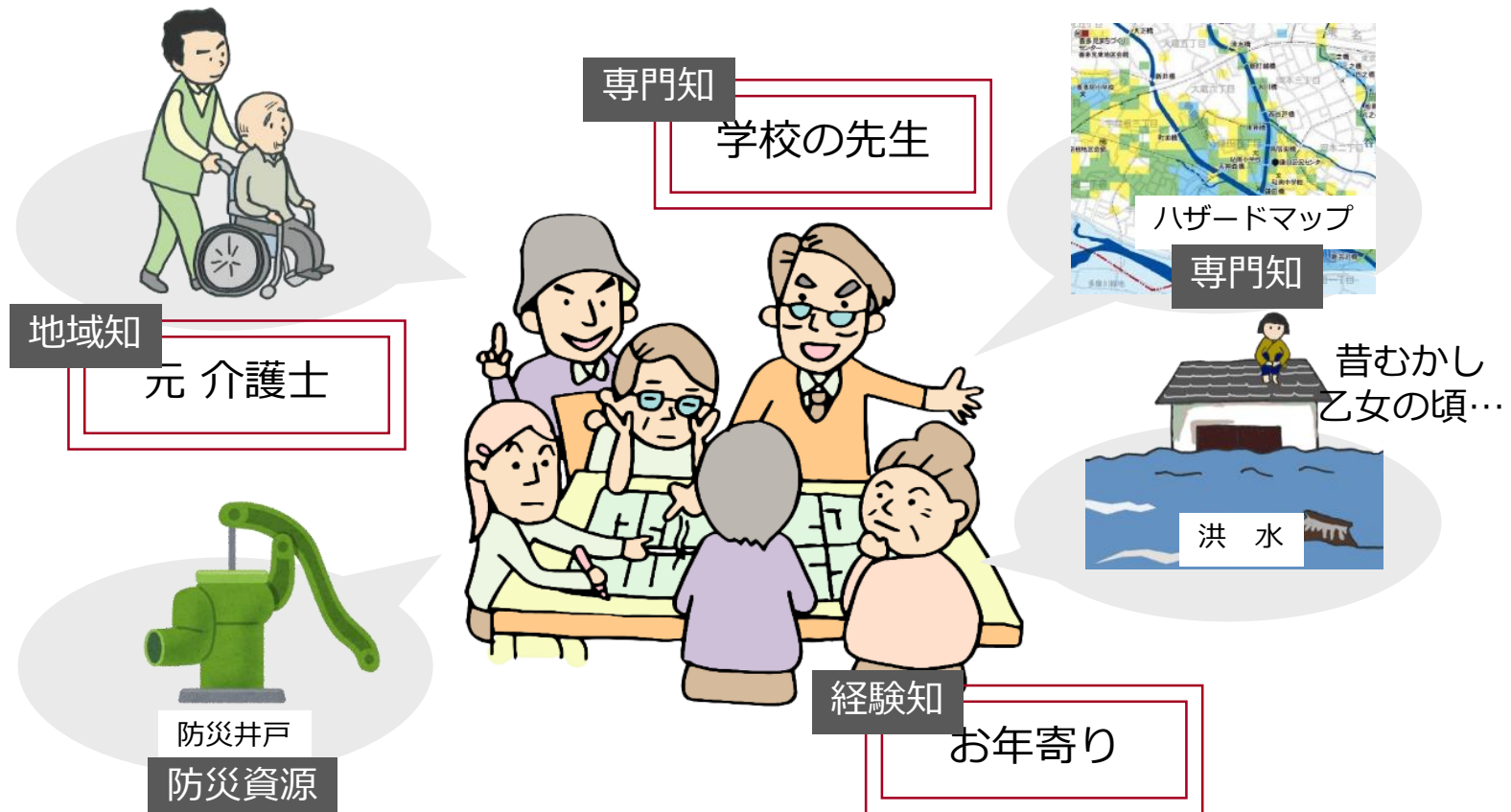


## ■ 計画の名称：〇〇地区防災計画

## ■ 計画の対象範囲：〇〇地区

地域には、老若男女いろいろな人たちが生活し、働いています。「地区防災計画」制度は、そうした**多様な視点を地域防災に取り入れながら地域全体で防災活動に取り組む**ことができるよう、地区居住者等が中心となって地区の特徴に沿って災害に備える、実践的な防災計画を作ることができる制度。

地区防災計画づくりにおいては、「**地域知（地域がもつ知）**」「**経験知（経験者の知）**」「**専門知（自治体担当や学識経験者の知）**」や**防災資源・社会資源**を活用することが重要。



※「地区防災計画ガイドライン」（内閣府、H26.3）を参考に作成

# 地区防災計画の考え方

## 地区の特性に応じた防災計画づくり

- 地区特有の自然的・社会的条件を考慮し、より**具体的かつ实际的な防災計画を作成**
- 地区居住者等が地区の特性や自らの**防災活動のレベルに応じて、自由に運用**
- 市町村全域の標準レベルに合わせる必要はなく、**活動の進展に応じて徐々にレベルアップ**

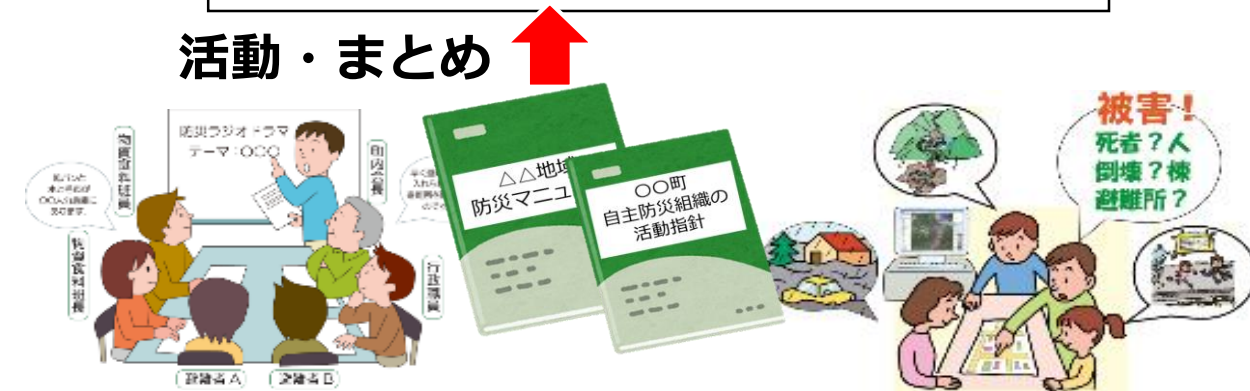
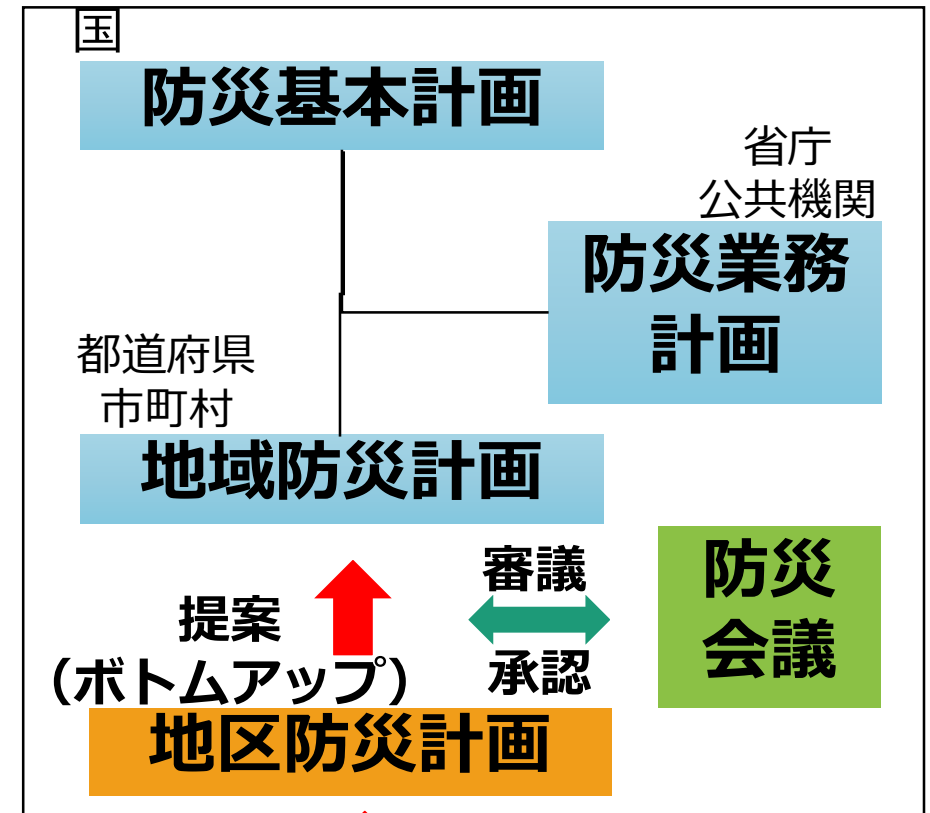
## 防災力を高める継続的な防災活動

- 日頃から地区居住者等が力を合わせて、**計画に基づく防災活動を実践**
- 防災活動が形骸化しないよう定期的に**地区居住者等が計画の評価や見直しの実践**

## 地域コミュニティ主体のボトムアップ型

- 地区居住者等が自ら計画素案を作成し、市町村防災会議に提案する「**ボトムアップ型**」の**計画提案制度**
- 提案を受けた市町村防災会議は**必要に応じ、市町村地域防災計画に定める**

### 災害対策基本法



地区居住者（地域コミュニティ）

## 地区防災計画のメリット（防災活動の支援者）

### 防災活動の現状把握

様々な地域が実施している防災活動の実施レベル・内容などを把握可能

- 従来：行政区内の地域別に行われている防災活動のレベルに関わらず一括の支援



**地区単位の防災活動レベルに応じた個別支援の計画・実行**

### 実態に応じた計画見直し

各地区の地区防災計画をもとに、地域の防災実態に応じた地域防災計画が作成可能

- 従来：行政の平時の備えと災害対応を中心とした地域防災計画の作成



**地域の防災取り組み実態に応じて実効性の高い地域防災計画の作成**

### 地域連携による災害対応

災害時に、行政の意思決定や判断に加え、地区計画上の防災体制と協力した対応可能

- 従来：地域防災計画上の指定避難所（小中学校等）を中心にした情報・物資等の一律支援



**地区防災計画上の自主避難計画（公民館等）を考慮した情報・物資等の包括支援**

## 地区防災計画のメリット（防災活動の実践者）

### 災害時の自主的な対応

災害時の市町村防災担当の指示に依存せず、地区特性に応じた対応を実施

- 従来：避難勧告や避難指示等の行政の避難情報発令による住民避難と避難所開設



**地区の災害脆弱性に応じた自主的な判断による避難と避難所開設**

### 防災活動の継続と充実

新たに計画を策定するのではなく、既存の防災活動をまとめながら継続的な実施

- 従来：防災活動メンバーの交代によって情報共有ができず、マニュアル等を新しく作成



**地区防災計画としてまとめ、情報の共有と継続的な見直しによる充実化**

### 防災活動の法的根拠づけ

既存防災活動の中、住民らが自主的に行ってきた取り決め等に対する行政公認

- 従来：防災活動の主体（地区住民等）の自己責任による自主的な防災活動



**地区防災計画に役割分担（公助・共助）を明記し、行政支援（制度・資金等）のもと実施**



# 地域の災害危険性等を確認

地域を取り巻く社会特性と自然特性を確認し、それを踏まえた災害特性を確認

ステップ1  
確認する



ステップ2  
調査する



ステップ3  
検討する



ステップ4  
活用する



防災グッズの備蓄  
→何が必要？



避難所（経路）の検討  
→どこが安全？



身の回りの点検  
→どこが危ない？

災害危険性の確認  
→どのような災害が起こる？



# 災害時の地域課題を調査

地域特性を考慮した被害をイメージしながら、災害時に地域で懸念される問題を調査



災害時の事態の流れ (地震の例)



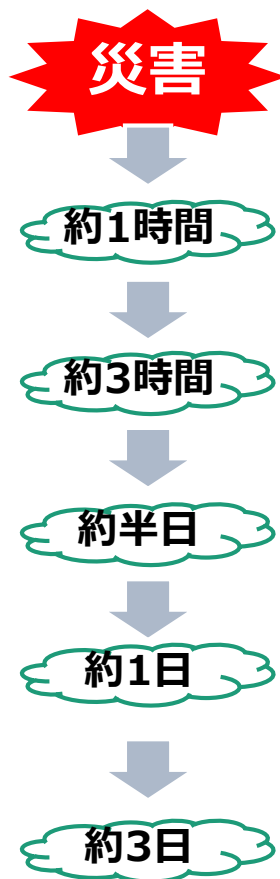
## 災害時の事態×地区の特性

- 年配の方が多く、平日の昼に地震が行ったら、人手が足りなくなりそうで・・・
- 隣の地域は古い家が集まっているけど、火事の対応は大丈夫？
- 私の地区には高齢者が多いけど、避難支援はできる？
- 高齢の方々は、大雨のとき、早目に自主的に避難できるかしら・・・

- 友だちが住んでいる高層マンションでは、高層階へ食料や物資を提供できる？
- 夫の職場の駅周辺は企業が多いけど、帰宅困難者の対応は大丈夫？
- あの商店街は外国人が多いけど、避難誘導ができる？

# 災害時の対応策を検討

地域の問題に対し、災害時の理想的な対応と平時から備えておくべき対策を検討



項目	災害時の対応	日常の備え
身の安全	身を守る、出口の確保	意識啓発・周知
安否確認	家族・近隣の安否確認	ルールやリストの作成
消火活動	出火・火元確認、消火活動	器具点検、防火広報
情報集約	被害状況の把握、報告	情報の収集・伝達、広報活動
救出・救護	負傷者等の救出、救護	資機材調達・整備
避難誘導	住民の避難・誘導	避難路（所）・標識点検
福祉支援	要援護者の避難と生活支援	高齢者や障がい者等の見守り
給食・給水	給食・給水の調達	食材調達、水源確保、器具点検
物資配分	必要な物資の把握・調達	個人備蓄の啓発活動
避難生活	避難所の運営、生活の維持	地域コミュニティ間の協力体制
二次被害防止	二次災害の軽減活動	危険箇所の巡回・点検
防犯・巡回	防火・防犯の見廻り	警察との連絡体制の検討
応急修理	危険や修繕箇所の対応	資機材、技術者との連携検討
受援調整	他組織からの受援の調整	自主防火組織、機関・団体と調整

課題に応じた対策の検討

## ● 防災資源（例）

人	資機材・施設
消防署	防災倉庫
消防団	避難施設
警察	消火栓
自衛隊	街頭消火器
医療関係者	防火用水・井戸
ボランティア	防災広報無線
施設管理者	止水板

## ● 社会資源（例）

人	資機材・施設
町会役員・民生委員	自家用車・重機（農業）
元医師・元看護師	無線機・発電機
商店・小売業・工事業者	空地・農地・公園
コミュニティ放送局	プール・池・井戸
生徒・学生・PTA会	各種福祉施設
アマチュア無線家	事業所建物や敷地
シルバークラブ・子供会	公民館・集会場

# 防災対策の検証 (取り組み継続)

地域の問題に対し、災害時の理想的な対応と平時から備えておくべき対策を検討

ステップ1  
確認する



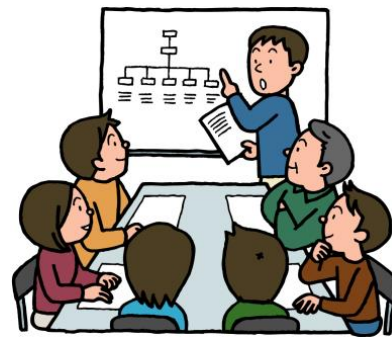
ステップ2  
調査する



ステップ3  
検討する



ステップ4  
活用する

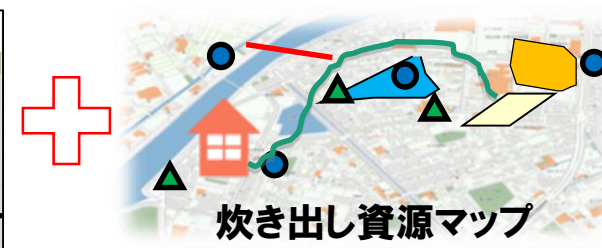


## ●対策の検討

(例) 機材や水、食料がある場所や利用場面がわかる「炊き出し対策シナリオ」・「炊き出し資源

災害時の対応と協力リスト				
No	内容	対策	関係者	協力内容
1				
2				
3				
4				
5				

炊き出し対策シナリオ



## ●課題の確認

(例)炊き出しをするために、機材や水、食料を何処から集めますか？



## ●協力関係をつくる

(例)マップとシナリオを持って、近所の井戸を持っている方に水を、食料品のお店に食材を提供してもらえようように協力をお願いします。



災害時の地域課題に対して対策を検討し、対策に必要な地域関係者に提供・協力依頼をし、災害時の協働できる防災体制を構築。

# 地区防災計画作成のおすすめ



## 1. はじめに

計画の目的・方針・運営主体（地区住民本部の設置と役割分担）

## 2. 地区の特性

自然・社会・災害特性（ハザードマップ）

## 3. 災害シナリオ

前提条件、想定被害

## 4. 災害時の対応と平時の備え（例）

### <発災～約00時間>

- 発災直後の行動  
➡ 平時からの備え
- 初期消火  
➡ 平時からの備え
- 安否確認・被害確認  
➡ 平時からの備え

### <約00時間～約00時間>

- 救助・救出  
➡ 平時からの備え
- 避難行動・要配慮者の避難支援  
➡ 平時からの備え

など

## 5. 計画の実践と運営

計画の具体的な実践方法と継続的な運営

- 地区の特性を考慮したうえ、重要と考えられる課題を取り上げ、災害対策を検討
- 年に数課題を取り上げて対策を検討し、年々課題を増やしていく
- 必要に応じてチェックシート様式を作成・追加
- 作成した計画は、防災活動による検証と見直しを通じて継続運営していく

# 地区防災計画の提案



① 住民の方々の意見を受け  
計画案を修正し、まとめる



② 提案書を市町村様式で書く



③ 市区町村の防災担当者に提出



市区町村の防災会議で審議



規定

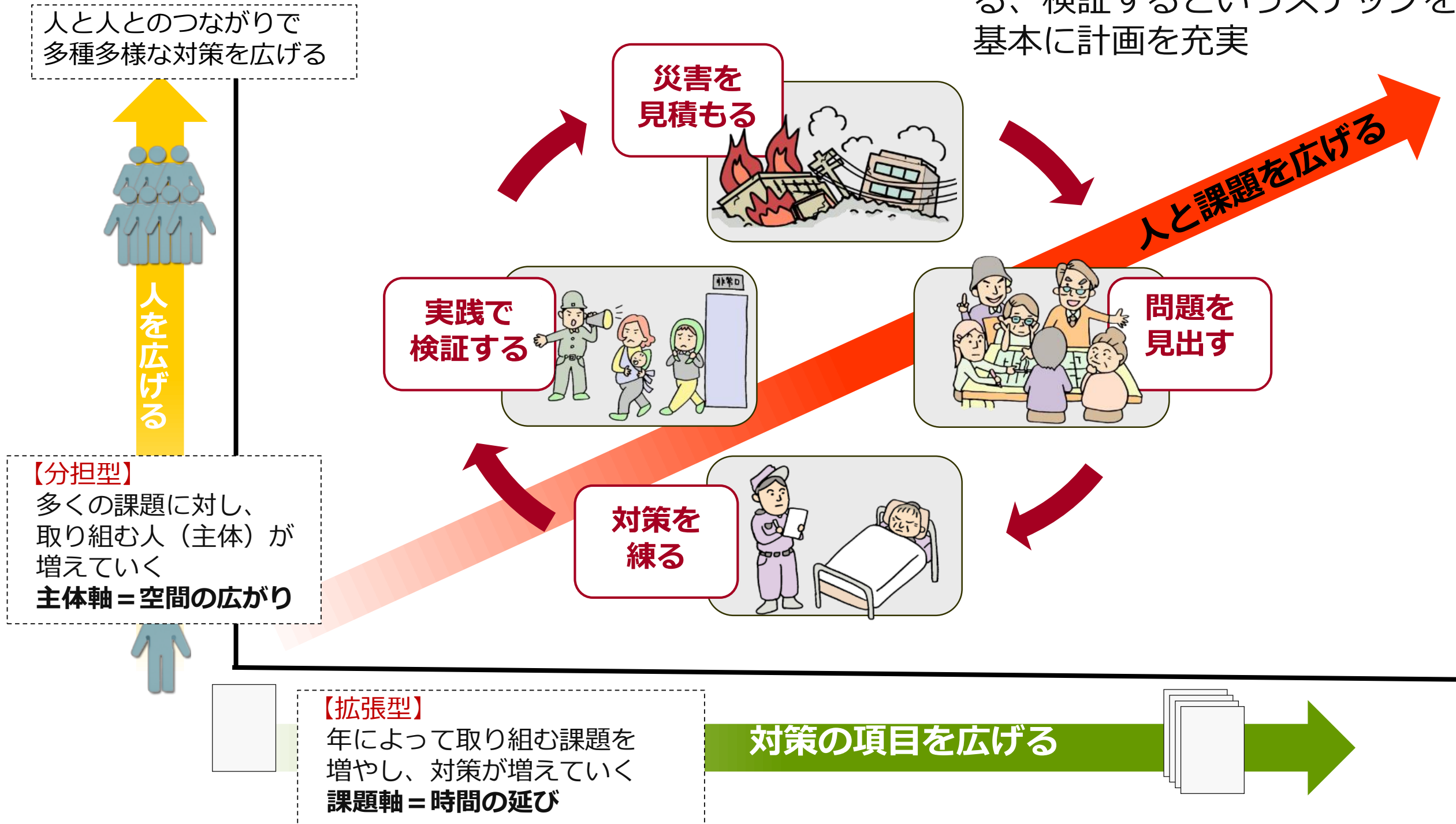


※計画として規定された後、運用へ

作成した地区防災計画案は、地区住民の合意を得たうえで、行政の防災担当者を通じて、行政の防災会議に提案。

# 地区防災計画の育て方

段階ごとに分けて取り組む、かつ、問題を見出す、対策を考える、検証するというステップを基本に計画を充実



「計画Plan」→「実施Do」→「評価Check」→「改善Action」のPDCAサイクルに沿って運用方法を設定し、検討した対策を実行できる具体的なアクションプランを立て、ステップアップしながら主体的に取り組む。

# 「知」の共有と活用を支援する「地域防災Web」

## ＜あなたの地域を知ろう＞

- 自然特性：地形、地盤等
  - 社会特性：人口、高齢化、財政力等
  - 災害特性：地震、津波等の危険性等
- 全国約1,800自治体と比べた相対的な評価結果を表示

## ＜地域防災情報＞ (DB化)

- 実践事例、関連手法
  - 災害事例DB
  - 人材（研究者等）DB 等
- 地域に必要な防災対策に関連する情報の検索

## ＜グループページ＞

- ユーザーの個別ページ
  - ブログ形式の活動記録の作成
  - 電子カレンダーでイベント管理
- 実践事例を文字と写真で記録・管理・公開・共有

## ＜参加型防災マップ＞

- WebGIS機能の電子地図
  - ハザードマップの閲覧・印刷
  - 地域情報の登録・印刷
- 地域情報を活用した地域固有の防災マップ作成



地域防災Web

<https://chiiki-bosai.jp>

# 「地域防災Web」の主な機能 1

専門知

## ＜あなたの地域を知ろう＞

- 自然特性：地形、地盤等
- 社会特性：人口・高齢化、財政等
- 災害特性：地震、津波等の危険性



全国約1,800自治体と比べた相対的な評価結果を表示

3! 災害の危険性 (全国からみた茨城県つくば市の危険性)

どの災害の危険性が高いのだろう?

知る

可能性大：0.7%  
可能性中：25.1%  
可能性小：0.0%  
なし：74.2%

スコア：0.5

災害の危険性の確率は？

知る

災害事例レポート (概要)

過去にどの災害が起こった？

知る

市区町村	スコア	人口	高齢化率	財政力指数	自然特性	社会特性	災害の危険性
茨城県 つくば市	-	220,622人	18.0%	0.98	5	4	-
1 神奈川県 大和市	6.11	233,586人	22.0%	0.95	3/3	3/3	91.8%
2 神奈川県 厚木市	6.94	225,342人	22.1%	1.08	4/4	4/4	93.3%
3 群馬県 太田市	7.95	222,130人	23.3%	0.93	3/3	4/4	86.8%
4 埼玉県 草加市	8.06	245,389人	22.7%	0.89	2/2	4/4	62.4%
5 大阪府 茨木市	8.77	278,782人	22.2%	0.93	4/4	4/4	87.4%
6 群馬県 伊勢崎市	9.10	211,297人	22.7%	0.81	4/5	4/4	81.8%
7 神奈川県 茅ヶ崎市	9.48	240,428人	24.2%	0.93	4/5	4/4	74.2%
8 静岡県 富士市	10.41	257,697人	24.6%	0.99	4/6	4/4	74.3%

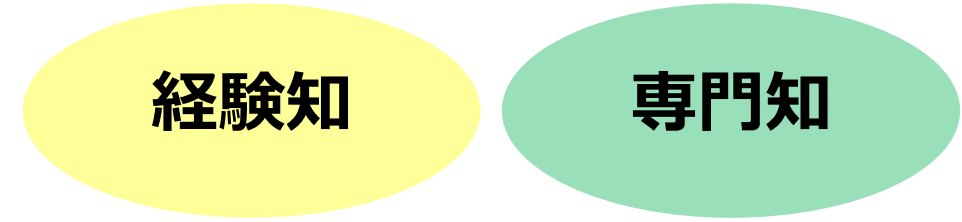
# 「地域防災Web」の主な機能 2

## <地域防災情報> (DB化)

- 防災活動・防災教育の実践事例
- 取り組み実践に必要な情報類
- 取り組みを支援する人材



地域に必要な防災対策と実践を支援する情報を推奨



すべて (1000000件以上)	課題 (88件)	手法 (1000000件以上)	実践事例 (50件)	調査 (0件)	データベース (10件)	防災知恵袋 (13件)	募集 (0件)
	自治体の防災担当者 (168名)	地域の防災リーダー (112名)			研究者 (98名)		実践技術者 (48名)

山口県宇部市における高潮災害に関する防災授業

登録日:2015/07/21 最終更新日:2017/05/23

対象  
防災活動

概要

(1)ID 実践事例(防災活動)00001008

(2)実践事例タイトル 山口県宇部市における高潮災害に関する防災授業

(3)所属課題タイトル 効果的な防災教育・啓発・地域の取り組み事例を知りたい

(4)所属手法タイトル なし

実際の潮汐の様子を動画で確認し、災害を引き起こすメカニズムを理解した上で、高潮が引き起こす災害の学習をおこなった。

高潮注意の活用

大潮 + 高潮 + 台風 = 高潮注意

【まとめ】

西純波地区では、台風の強さや台風の近づく時間帯によって、大きな高潮被害をうけるおそれがある！

過去に現地で発生した高潮災害の様子と現在の様子と同じ場所の写真と比較し、生徒が普段歩いている通学路の被害状況などから、より具体的な被害規模が理解できるようにした。

旧地形図や標高図を利用し、地域の変化を理解すると共に、それにより被害を受けやすくなっていることも理解でき

類似地域の取り組み事例

### 孤立対策検討ワークショップの実施と参加者への調査によるリスクコミュニケーション効果の分析手法

関西学院大学総合政策学部 都市政策学科 准教授 照本 清峰

概要

- 地震発生後に地域が孤立した場合の対策を検討するワークショップを設計・実施し、参加者への調査をとおしてリスクコミュニケーション効果を分析する手法です。
- 孤立対策検討のためのワークショップに参加した住民へアンケート調査を実施し、意識傾向の変容や防災対策意識の促進について分析して効果的なリスクコミュニケーション方法を定量的に検討できる手法です。
- 適用条件 地震によって孤立する危険性がある中山間地域の自治体に適用でき、ワークショップの回を重ねるごとに参加者の対策促進意識が醸成される傾向が確認されましたが、調査のサンプル数が限られています。

この手法の実践事例

徳島県美馬市木屋平地区における孤立対策検討ワークショップの実 2017/03/31  
施とリスクコミュニケーション効果の分析

手法に関する資料

なし

実践事例に活用された手法

研究者

氏名	李 泰榮
所属	国立研究開発法人 防災科学技術研究所社会防災システム研究部門
役職	主任研究員
対象ハザード(災害)	地震、液状化、津波、火山、洪水、内水氾濫、高潮、土砂、豪雪、その他
活動可能範囲	全国

手法登録履歴(2件)

- 「e防災マップづくり」、「災害対応シナリオづくり」を活用した3つのステップによる災害リスクコミュニケーション手法
- 防災ラジオドラマ制作を通じた地域防災力の向上

調査登録履歴(0件)

データベース登録履歴(0件)

researchmap登録論文(75件)

- 地震防災取り組みにおける災害リスクコミュニケーション手法の構造化と実践効果 ～茨城県つくば市筑波小学校区の事例～  
李 泰榮, 田口 仁, 白田 裕一郎, 長坂 俊成, 坪川 博彰  
日本地震工学会論文集 17(1) 63-76 2017年02月 [査読有り]
- 災害ボランティアセンターにおける地理空間情報の利活用方法の提案:被災地支援事例を通じて  
田口 仁, 李 泰榮, 水井良輔, 佐野浩彬, 白田裕一郎  
災害情報 14 116-127 2016年06月 [査読有り]
- 効果的な災害対応を支援する地理情報システムの一提案:東北地方太平洋沖地震の被災地情報支援を事例として  
田口 仁, 李 泰榮, 白田 裕一郎, 長坂 俊成  
日本地震工学会論文集 15(1) 101-115 2015年03月 [査読有り]

手法・事例の研究者・実践者

# 「地域防災Web」の主な機能3

## <グループページ>

- ユーザーの個別ページ
- ブログ形式の活動記録の作成
- 電子カレンダーでイベント管理

経験知

地域知

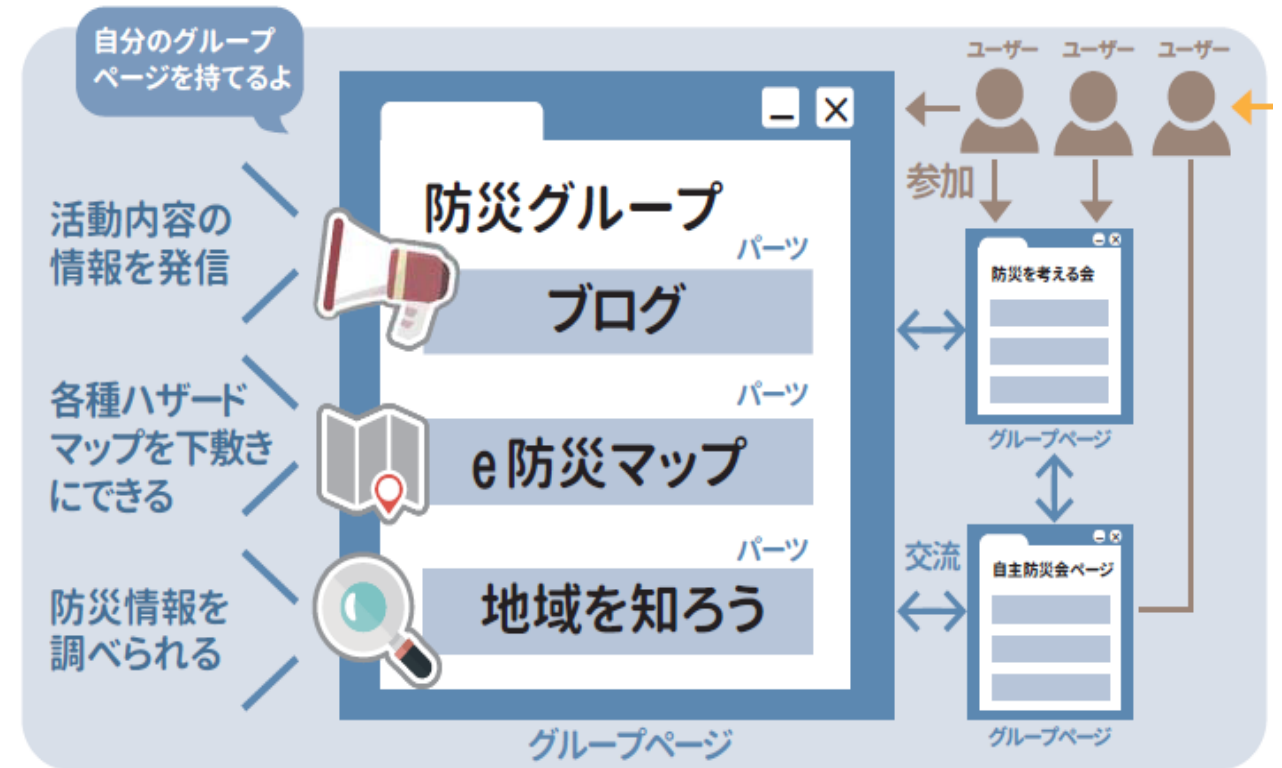
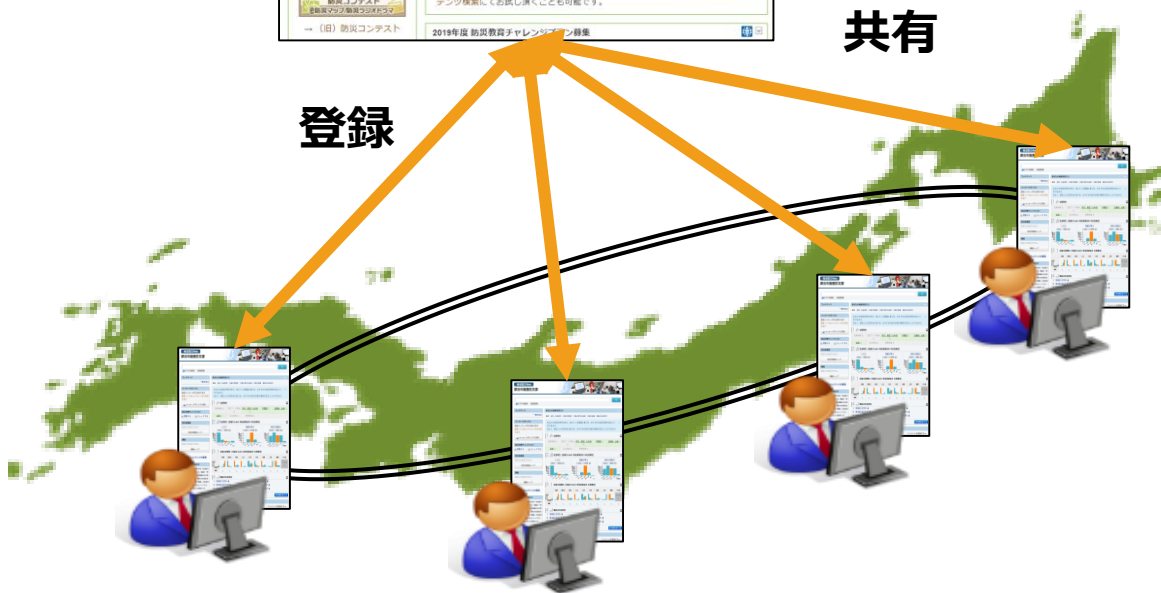


実践事例を文字と写真で記録・管理・公開・共有



共有

登録



- ✓ 自分で作ったグループページに好きなパーツを自由に配置
- ✓ グループページやパーツの公開範囲の設定も自由自在
- ✓ 地域のみみんなでグループページを運営
- ✓ 他のグループページにも参加できる

# 「地域防災Web」の主な機能4

## ＜参加型防災マップ＞

- WebGIS機能の電子地図
- ハザードマップの閲覧・印刷
- 地域情報の登録・印刷

地域知

専門知

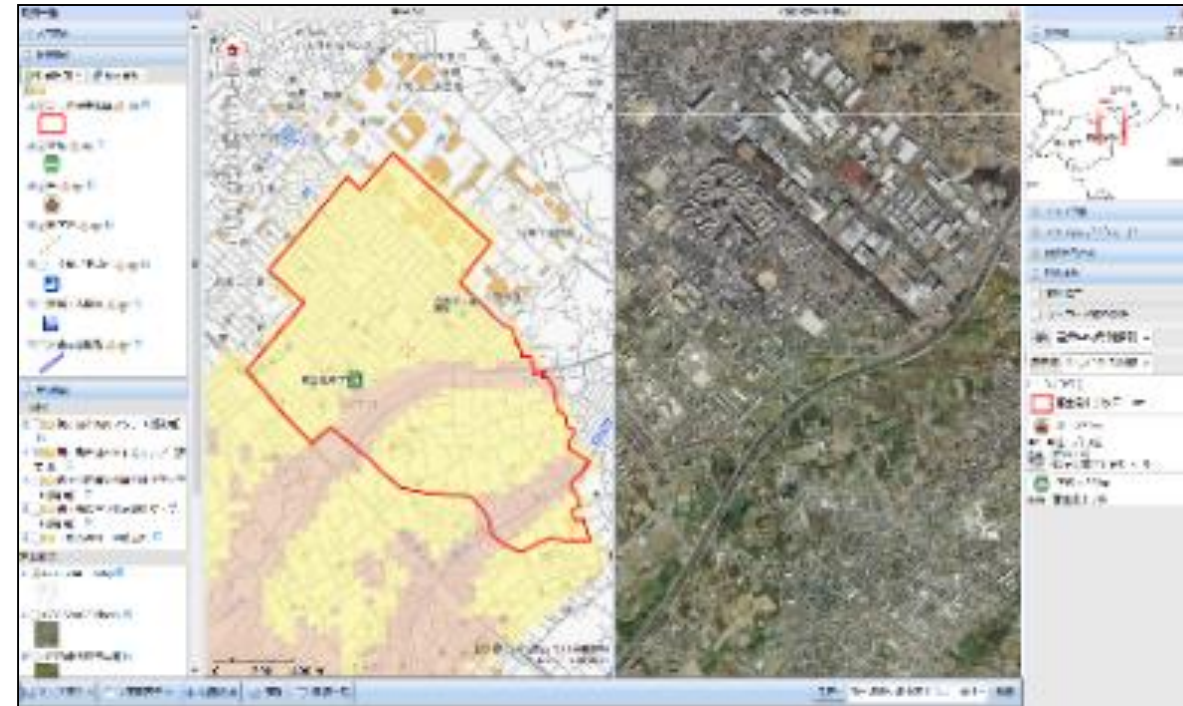


地域情報を活用した地域固有の防災マップ作成

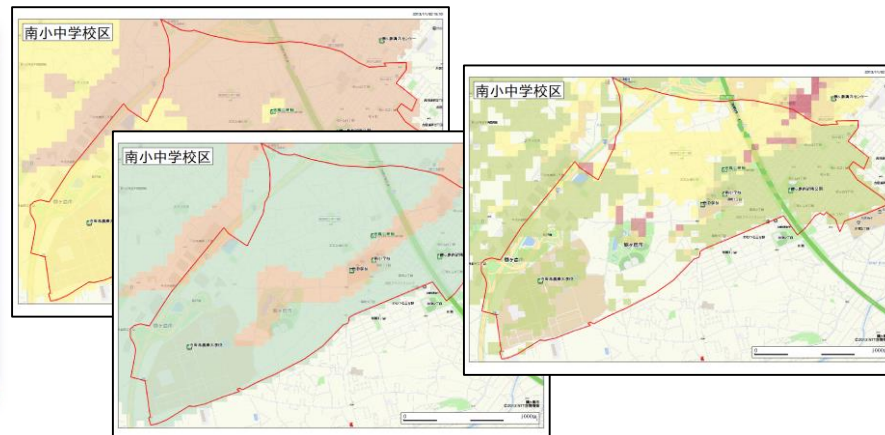


地域情報の登録

(地図・点・線・面・写真・文字・動画)



印刷



# 「地域防災Web」の活用

ステップ1  
確認する



地域を取り巻く社会特性と自然特性を確認し、それを踏まえた災害特性を確認します。

ステップ2  
調査する



地域特性を考慮した被害をイメージしながら、地域で懸念される問題を調査します。

ステップ3  
検討する

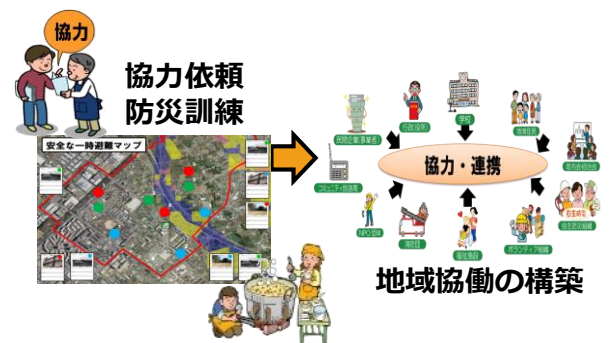
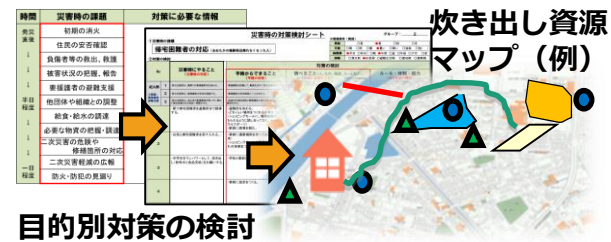
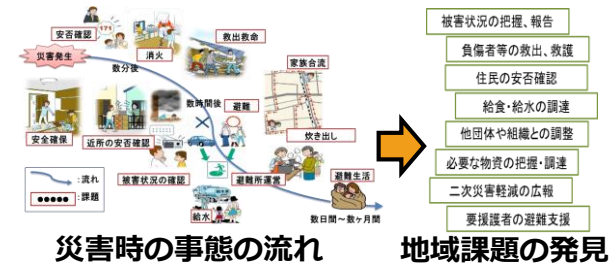


地域の問題に対し、災害時の理想的な対応と平時から備えておくべき対策を検討します。

ステップ4  
活用する



地域の方々と課題と対策を共有したり、意見交換するなど、様々な方法で検証します。



## 「地域防災Web」

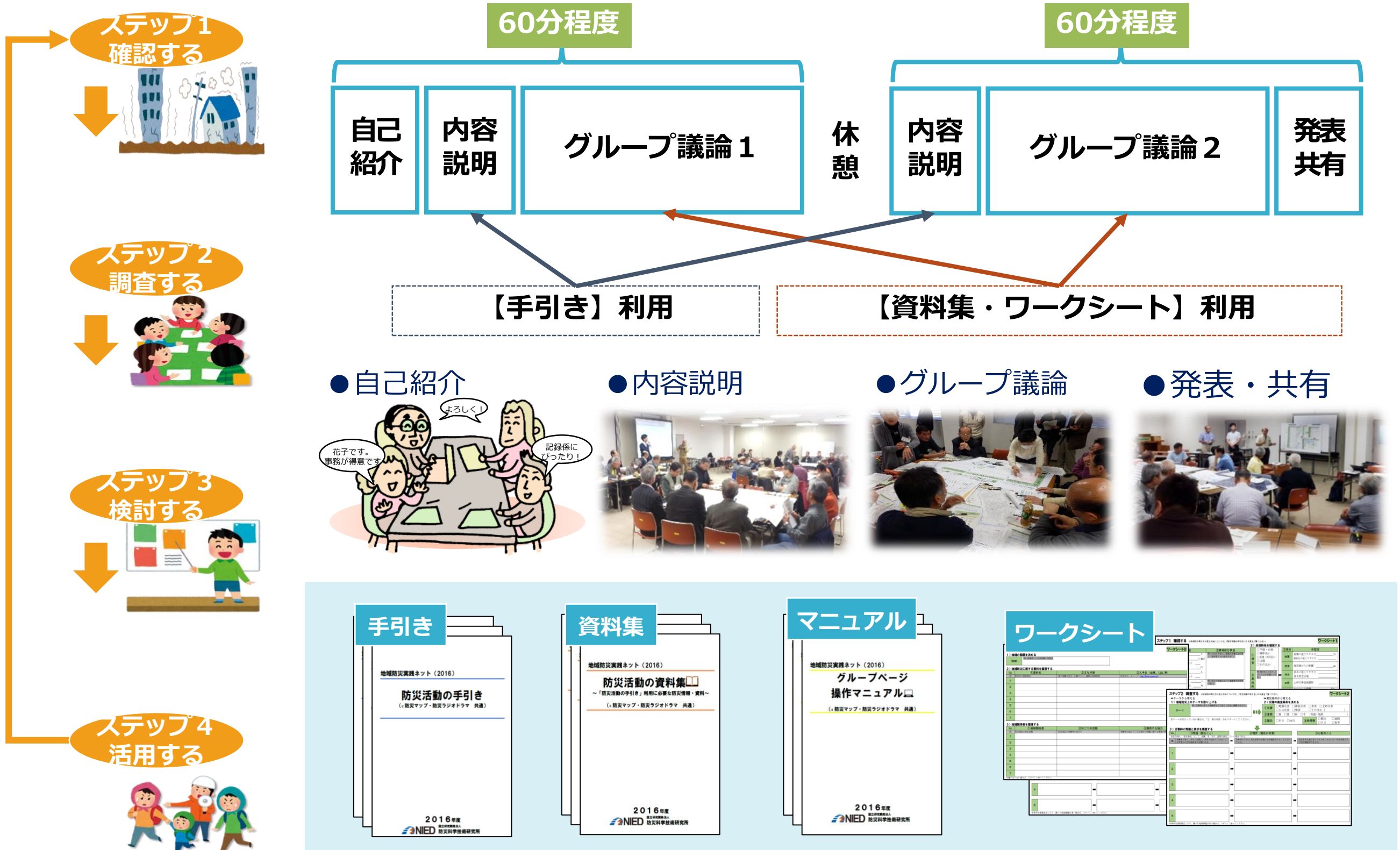
- ・ 地域を知ろう
- ・ eコママップ

- ・ 手法/事例閲覧
- ・ 情報検索

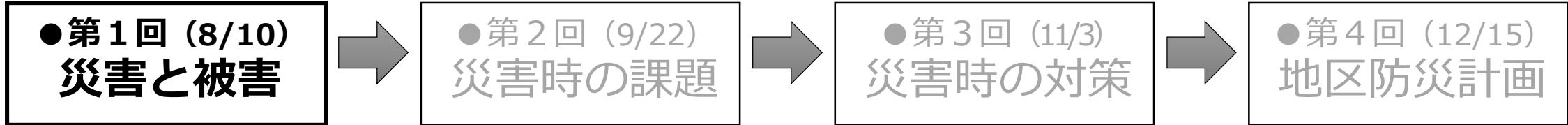
- ・ 防災まちあるき
- ・ 防災マップ作成

- ・ 活動記録
- ・ 事例登録

# ワークショップでつくる地区防災計画

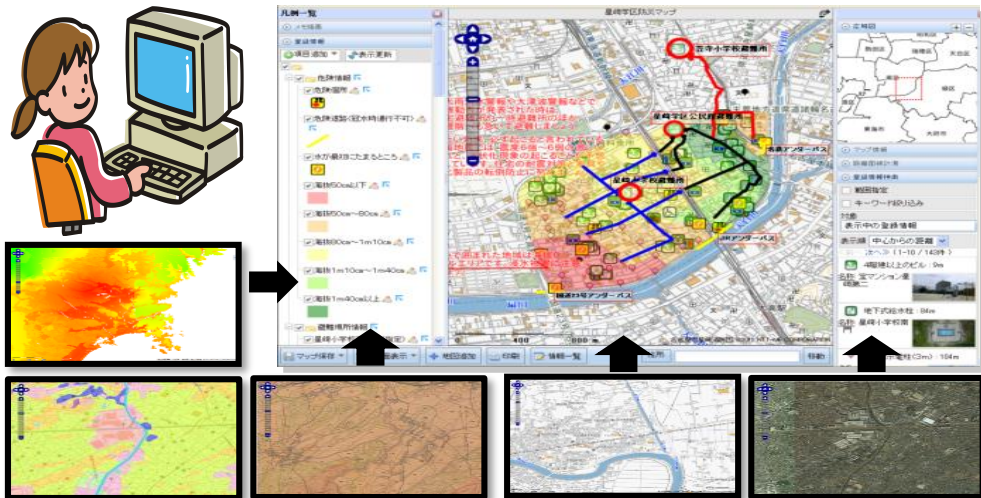


事例



地域で起こりうる災害と、災害が発生した際の被害を確認し、災害時に地域で起こりうる課題に対して対応（関係者・利活用資源）を考える。

●地域の災害特性を学ぶ



●災害時の課題と対応を整理する

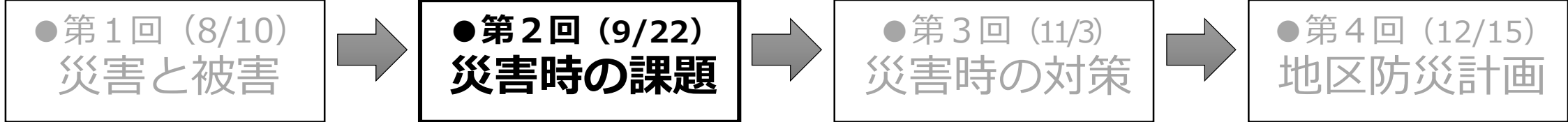
課題

- ① 子供の一時避難
- ② けが人の支援
- ③ 要援護者等の支援
- ④ 被害情報の集約
- ⑤ 給食・給水
- ⑥ 避難所開設・運営
- ⑦ 外部支援の受入



テーマ	No	1) 起こりうる課題 (必要対応)	2) 対応に必要な人材・機材・場所	3) 現状・協力関係・コメント	4) 地図番号
1	1	南小中学校が液状化し避難所として使えない。	学校以外の最寄りの広い場所 駐車場 南児童公園、大橋児童公園 新緑団地内 大橋公民館	何人かの大人は普段から下校時開帯の「みまもり」を実施している。 ↓ その人たちが中心となり子供たちを 広い場所に連れていく。	
		自力で避難できない高齢者などの安全確認と避難誘導は？	新緑団地→集会所 階役委員 確認、誘導してほしい人の名簿を任意で作り、普段から共有しておく (要介護者マップを形にしておく) 市の避難者（福祉避難所、情報連絡拠点）との行き来する人が必要。	民生委員だけでは足りない。 ↓ →自治会班長などが協力	
		避難所運営のし方は？	食料の備蓄→ 大谷川の水（揚水してなければ）トイレ	地域のコンビニ、自動販売機農産品店との協定を結んでおくとよい。 防災井戸を掘りたいた。	
		夜間の警備は誰がする？	使える発電機を普段から確保しておきたい。	たき木ならなら、市民の森にある。	

事例



災害時に地域で起こりうる課題と必要な対応について、防災まちあるきを通じて地域を確認し、危険要素や新たな資源を発見・点検。

●課題と対応に対する現状確認



●防災まちあるき



課題① 子供の一時避難

地震災害時の対応確認シート

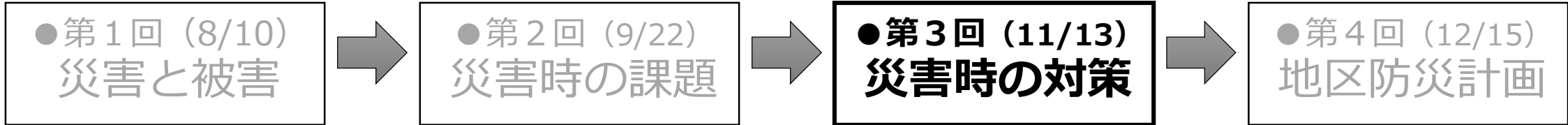
No	必要な対応	役に立つ場所・施設・ひと・もの	地図	写真
1	記入例 子供たち一時避難	1-①●●公園 (安全) 1-②●●駐車場 (車に気を付ける) 1-③自治会高・・・ (協力をお願い)	✓	✓
1	子供たちの一時避難	① 雨の園 (雨の園) (城公園 中央公園 東公園)		
2	被害情報の把握・集約			
3	給食 (炊き出し)・給水			
4	要保護者の避難対応			
5	けが人の救護			
6	避難所等での優待			

地震災害時の危険確認シート

No	危険なもの	理由	コメント	地図	写真
記入例	●●のブロック塀	倒れたら道が通れなくなる	修繕が必要	✓	✓
①	国史館の橋	落ちたら通れない			✓
②	笑谷川	水がたまる可能性	水がたまる可能性	✓	✓
③	大の谷公園	住宅が囲まれている	避難場所ではない	✓	✓
④	4区市道 通路 雑色若菜 田				
⑤	④の川へ入る道路 道路が狭い 避難所		避難所		
⑥	木造の建物の木	大雨になると倒れる		✓	
⑦	4区市道 通路 雑色若菜 田	大雨になると通れない		✓	✓
⑧					
⑨					
⑩					
⑪					
⑫					
⑬					
⑭					
⑮					



事例

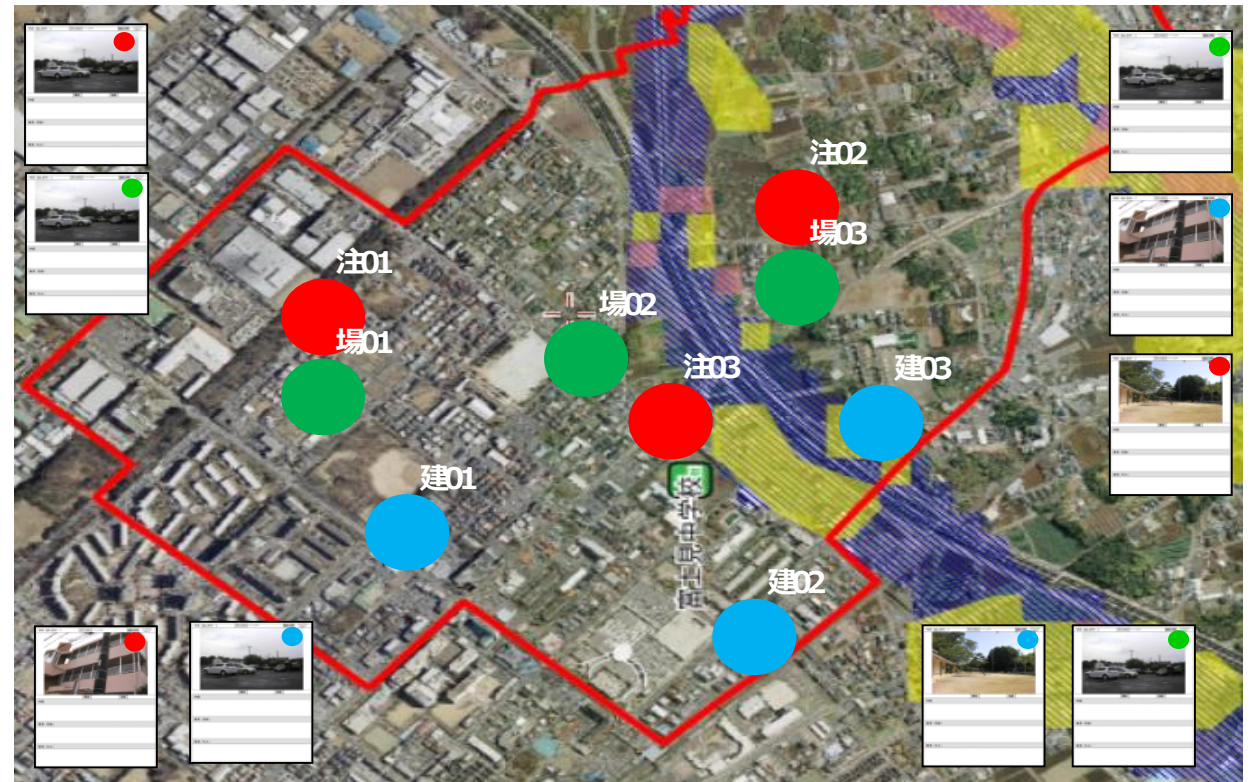


防災まちあるきで確認・発見した内容について、みんなで確認しながら整理して防災マップをつくって対策を練る。

●防災まちあるき結果整理



●子供の一時避難マップ



子供の一時避難マップ

eコママップ



事例

●第1回 (8/10)  
災害と被害

●第2回 (9/22)  
災害時の課題

●第3回 (11/3)  
災害時の対策

●第4回 (12/15)  
地区防災計画

「防災マップづくり」ワークショップを通じた議論した、災害時に地域で起こりうる課題と必要な対応を踏まえ、地区防災計画を検討する。



災害時の課題

課題No	1) 起こりうる課題 (必要な対応)	2) 発生した被害 (人命・建物・環境)	3) 課題・被害のコメント
1	避難所不足	避難所不足	避難所の不足は避難者の安全確保に支障を及ぼす
2	避難経路の確保	避難経路の確保	避難経路の確保は避難者の安全確保に支障を及ぼす
3	避難所の確保	避難所の確保	避難所の確保は避難者の安全確保に支障を及ぼす

災害時の対策

対策No	必要対応	実施主体	実施時期	実施状況
1	避難所不足	自治体	2019年	完了
2	避難経路の確保	自治体	2019年	完了
3	避難所の確保	自治体	2019年	完了



(案)

### 1. 地域の概況

1-1 位置  
南小中学校区は、鶴ヶ島市の境界に位置しているため、隣の市町村(川越市)との友好関係を考慮する必要がある。  
南小中学校区内の大規模公民館より、川越市の川越公民館への避難アクセスが良い。  
平時においては、図書館・公民館(隣接市)を利用できる連携関係にある。

1-2 構成  
南町、松ヶ丘、大田ヶ谷の地区で構成し、サザン

### 4. 地域の防災備蓄

4-1 鶴ヶ島市の防災備蓄  
鶴ヶ島市では、災害時に備え、市役所の防災倉庫や市内の小・中学校に防災備蓄教室等を整備し、食料、生活必需品、応急給水機材、防災用資機材、医療救護資機材等の備蓄している。

区分	備蓄物資名(単位)	数量	区分	備蓄物資名(単位)	数量
食料	アルファ化米(袋)	5,000	飲料	保存水(2リットル)(本)	1,800
	サバ缶(缶)	5,460		飲料水(1リットル)(本)	1
	毛布(枚)	3,330		飲料水(2リットル)(本)	13
	マット(枚)	3,370		給水機(台)	14
	飲料水ポリ容器(3リットル)(個)	4,320		浄水機(手動式)(台)	27
	ポータブルトイレ(個)	260		子備り(手動式浄水機用)(台)	27
	テント(3×3)(外用)(基)	260		ポリタンク(個)	26
	スクレットイレ[S-100](箱)	415		ブルーシート(枚)	650
	スクレットイレ[S-F](箱)	1		救急箱(個)	23
	懐中電灯(3V)(付着)(個)	75		三角巾(枚)	800
生活必需品	下着セット(男性用)(セット)	1,300	充電機(台)	40	
	下着セット(女性用)(セット)	1,300	投光機セット(セット)	41	
	下着セット(男性用)(セット)	500	コードリール(基)	14	
	下着セット(女性用)(セット)	500	ハンドマイク(付着)(台)	15	
	専科キッチンセット(セット)	28	防災メガホン(個)	234	
	生理用パッド(42個入り)(袋)	600	担架(基)	30	
	紙おむつ子ども用(枚)	948	ヘルメット(個)	228	
	紙おむつ大人用(枚)	474	スコップ(丸形)(本)	52	
	尿とりパッド男性用(枚)	240	スコップ(角形)(本)	120	
	尿とりパッド女性用(枚)	240	ヘッドランプ(個)	100	
洗濯セット4人用(セット)	750	折り畳みリキヤ(台)	13		
			皮手袋(組)	160	
			破壊工具セット(セット)	15	
			台車(避難対応可能)(台)	3	

(資料: 鶴ヶ島市地域防災計画)

- ### <目次案>
1. 地域の概況
  2. 地域の災害と被害
  3. 災害時の課題と対策
  4. 地域の防災備蓄
  5. 地域の避難体制
  6. 防災マップ
  7. その他、様式等

埼玉県鶴ヶ島市  
南小中学校区  
地区防災計画  
<地震災害編>

### 2. 地域で起こりうる地震

2-1 鶴ヶ島市で起こりうる地震  
鶴ヶ島市は、地域に大きな被害を及ぼす恐れのある地震として、「深谷断層による地震(M7.5)」「全国どこでも起こりうる直下型地震(M6.9)」の2つを想定している。これらの地震をもとに、地震が起こった際の危険性を表す3つのハザードマップを作成・公開している。

・建物倒壊危険度マップ: 揺れやすさをもと、その上・中・下層、築年: 昭和36年基準)から被害を評価した